【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	千　葉

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	八日市場市立第一中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	４	４	２	１４	２７
生徒数	１２３	１２５	１４４	３	３９５	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

基礎･基本を身につけ，自ら生かしていくことができる生徒の育成
～確かな学力の定着に向けて～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

◎全学年・全教科
　教科担任制の中学校では，単一教科に絞ることは他教科への広がりが期待できず，妥当ではないと考えると共に，学校全体，全職員で学力向上に取り組んでいきたいと考えたため。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度

◎　テーマ
　生徒の「確かな学力」の定着を図るためには，どのような授業改善を図ったらよいかを実践的に研究する。
（１）基礎学力の定着
（２）指導方法・指導体制及び教材開発の工夫改善
（３）興味・関心，意欲の高揚（自ら～しようとする力を高める）

◎　研究の見通し
（１）授業の中に基礎・基本の学習時間を位置づけることで，基礎・基本の繰り返し指導が積み重ねられ，基礎学力の定着が図れるだろう。
（２）朝自習及び放課後の時間を利用して，読書や英単語・漢字・基礎計算練習を行うことで，生徒の教科学習の土台となる基礎的な学力の定着が図れるだろう。
（３）教科の特性に応じた指導方法の実践や，補充的・発展的学習のための教材開発を行えば，生徒の学習への理解度も高まり，「確かな学力」を身につけることができるだろう。
（４）生徒一人一人の興味・関心・能力・適性等に配慮し，個性の伸長に努める学習形態の工夫をすれば，意欲的に学習に取り組み，主体的に学ぶ力がつくだろう。

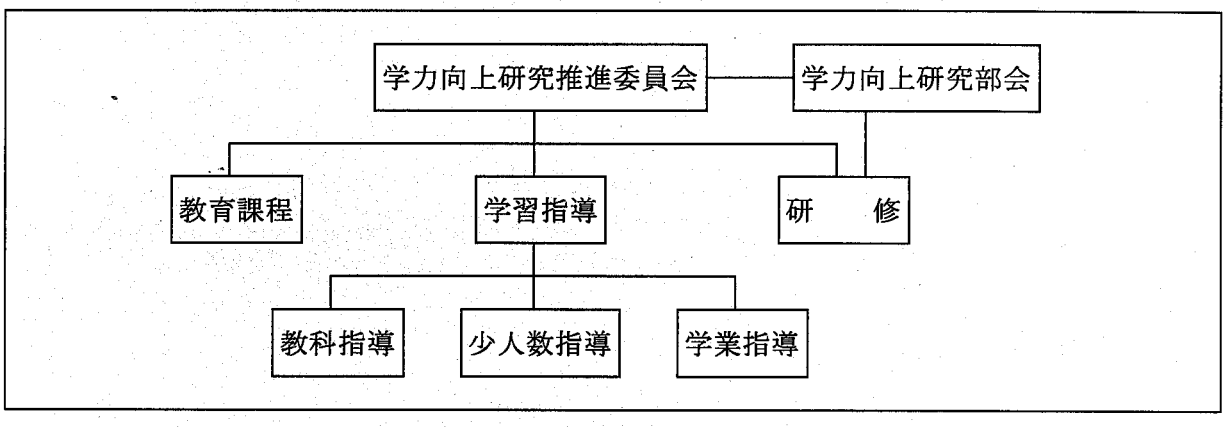
◎　研究の内容・方法
（１）基礎・基本の定着
①各教科での取り組み
○教科の基礎・基本の明確化と具体的指導の研究・実践
（基礎・基本の定着を図るために授業で継続できる内容の研究・実践を含む）
○教材・教具の精選・開発及び効果的活用法の研究・実践
○年間指導計画の検討と修正及び評価規準の検討

②基礎学力向上のための取り組み
○「読み・書き・計算」の力をつけるための時間や教材の開発
（朝の読書・チャレンジタイム等）
③少人数指導の取り組み
○学習集団の少人数化(習熟度別・ＴＴ等)を図ることでの効果の研究・実践
（２）自己学習力の育成
①意欲的な学習集団作りの研究
○自己評価カードの活用等による学習規律・学習準備などの学業指導の徹底
②生徒が主体的に学ぶための学習形態の研究
○興味・関心，能力・適性等に配慮し，個性の伸長に努める学習形態の研究・実践

平成16年度

◎　テーマ
各教科で培うべき基礎・基本を明らかにし，「確かな学力」の定着を図るための具体的な手だてを研究する。
（１）基礎学力の定着
（２）指導方法・指導体制及び教材開発の工夫改善
（３）興味・関心，意欲の高揚
◎　研究の見通し
（１）授業の中に基礎・基本の学習時間を位置づけることで，基礎・基本の繰り返し指導が積み重ねられ基礎学力の定着が図れるだろう。
（２）教科の特性に応じた指導方法や，補充的・発展的学習のための教材開発を行えば生徒の学習への理解度も高まり,「確かな学力」を身につけることができるだろう。
（３）生徒一人一人の興味・関心，能力・適性等に配慮し，個性の伸長を図るための評価場面や方法の工夫をすれば，意欲的に学習に取り組み，主体的に学ぶ力がつくだろう。
（４）朝自習等の時間を利用して読書やドリル学習(チャレンジタイム)を行うことで，教科学習の土台となる基礎的な学力の定着が図れるだろう。
◎　研究の内容・方法
（１）基礎学力の向上をめざす取り組み
【朝の読書】
一日の学習や生活を落ち着いた気持ちと雰囲気でスタートさせるため，毎朝１０分間の読書を行う。
○学力の基礎・基本である読解力や表現力，思考力の育成を図る。
○集中力と読書の習慣を身につけ，情操豊かな心の育成を図る。
【チャレンジタイム】
国語・数学・英語のドリル学習を，毎日１０分間行う。
○基礎的な「読み・書き・計算」の能力を養う。
（２）各教科での取り組み
○教科の基礎・基本の明確化と具体的な指導方法の研究・実践。（基礎・基本の定着を図るために授業で継続できる内容の研究・実践を含む＝復習テスト・自己評価カード）
○教材の開発及び効果的活用方法の研究・実践。
○少人数指導及びＴＴの研究・実践。
○自己評価カードの活用等による学習規律，学習準備などの学業指導の徹底。
○興味・関心，能力・適性等に配慮し，個性の伸長に努める学習形態の研究・実践。
（３）選択教科での取り組み
○必修教科の学習目標に基づき，各講座の学習目標，学習内容等を明確にした展開を行う。
○基礎・基本(補充)，発展的学習と共に，課題解決的学習の講座も開設し，「確かな学力」の定着とあわせて，「生きる力」を身につけられるようにする。
○体験的学習の取り組みや，ゲストティーチャーを迎える等，生徒の興味・関心を高めると共に，個性の伸長を図る。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

（１）基礎・基本の定着

①各教科指導での取り組み

○教科の基礎・基本の明確にすることにより，各教科における基礎・基本を培わせようと意識した授業を展開するようになっている。

○基礎・基本の定着のため各教科で毎授業時５分間を使い，基礎基本に関わるプリントを実施するようにしたが，多くの生徒がこのことに対し意欲的に取り組んでいる。
（アンケート調査の結果，８５％の生徒が５分間の基礎・基本学習について「とてもよい」「よい」と答えている。）

②基礎学力向上のための取り組み

○朝の読書，チャレンジタイムについても意欲的に取り組む姿が見られる。

○朝の読書は，本を読むきっかけを与えた形になっている。朝の時間帯だけでなく，休み時間等も時間があれば読書をしていたり，帰宅後も読書をする生徒が増えている。

○チャレンジタイムとの相関性を特定はできないが，漢字検定や英語検定・数学検定等の各種検定を受検する生徒数が増加している。

③少人数学習の取り組み

○生徒は少人数に分かれて学習することに肯定的に受け止めている。
（アンケート調査の結果，「数学」で少人数学習を実施することについて７割近くの生徒が「とてもよい」「よい」と答えており，少人数で行う授業の内容については５３％の生徒がわかりやすくなったと答えている。また，少人数学習については，「毎時間コース別がよい」が２６％，「課題によってコース別の授業がよい」が４３％，「毎時間ＴＴがよい」が１２％となり，少人数で学習することに対しては８割以上の生徒が賛成をしており，とりわけ習熟度別クラス分けを行う方法を，７７％の生徒が「とてもよい」「よい」と感じている。）

○数値的な成果については，３学期に行う検査でデータ収集・考察を行い，課題を見いだしたい。

（２）自己学習力の育成

①意欲的な学習集団作りの研究

○自己評価カードにより授業への取り組みを自己評価させることで，生徒は１時間の授業をふり返ることができ，反省を次時の授業へ生かすことができるようになっている。

○自己評価カードにあらかじめ授業の計画が示されている教科もあり，生徒はスムーズに授業に取り組むことができる。

○また，自己評価について肯定的に受け止めている生徒が多い。
（アンケート調査の結果，「授業をふり返っての自己評価を行う」ことについて，６６％の生徒が「とてもよい」「よい」と答えている。）

②生徒が主体的に学ぶための学習形態の研究

○各教科，単元や題材ごとにその特性を考慮し直し，今までとは異なった学習形態を取り入れて指導をするようになっている。

2．今後の課題

（1）基礎・基本の定着
①各教科指導での取り組み
○本年度の課題をもとに年間指導計画や評価規準の見直しを行う。
○基礎・基本の定着を図るための教材・教具の精選・開発及び効果的活用法について，より一層の充実を図る。
②基礎学力向上のための取り組み
○チャレンジタイムの取り組みがマンネリ化しつつあるという意見も出ているので，それらの見直しを含めチャレンジタイムのより一層の充実を図る。
③少人数学習の取り組み
○習熟度別学習におけるコースの選択が教師側との思惑とずれがある。単元テストをもとに自己評価をさせ，生徒自身でコース選択を行ってきたが，まだ教師の指導を必要とする場面があり，今後も生徒の選択能力の育成が必要である。
○編成方法については単元や学習内容によって方法を変えて指導を行ってきた。今後も検討を重ね，単元や学習内容・生徒の実態に応じた指導を継続していく。
（2）自己学習力の育成
①意欲的な学習集団作りの研究
○評価項目の研究，改善が必要である。
○自己評価の内容をどのように評価に結びつけるか。（意欲等の数値化）
②生徒が主体的に学ぶための学習形態の研究
○グループ分けの有効的な活用方法を，より一層充実させる必要がある。
○個人の能力・適性に応じた均等のグループ分けをしても，その他の要素で意欲の欠如が見られた。
○適性に応じた学習形態で授業を行っても，学習内容の定着が図れていない。
○発達段階に応じてグループ学習の効率化を図る必要がある。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

○ＮＲＴ(Norm Referenced Test)　相対評価法による教研式標準学力検査
ＣＲＴ(Criterion Referenced Test)　絶対評価法による教研式標準学力検査
目　的　「学力向上フロンティアスクール」＝基礎・基本の定着による確かな学力の定着度を図ると共に，今後の改善の方向性を探る一助とするため。
実施時期　１学期（６月）にＮＲＴ，３学期（３年生は２月，１・２年生は３月）にＣＲＴの年２回実施。
実施内容　学力検査
○学習生活実態調査
目　的　学力向上フロンティアスクール事業の取り組みによって，取り組み前後の生徒の学習及び生活態度の変容について調べると共に，学力検査との相関関係について考察し，考察した結果から成果と課題の把握，改善を図る。
実施時期　学力検査（ＮＲＴとＣＲＴ）日に併せて年２回実施。
実施内容　アンケート調査

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○公開研究会の開催
（1）日　時　　平成１６年度１１月第２週
（2）場　所　　八日市場市立第一中学校（本校）
（3）対　象　　県内所属教育事務所管内中学校及び，一中学区小学校。
（4）目　的　　研究成果の深化及び普及
○研究成果普及のためのホームページの作成

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ３学級以下　□ ４～６学級
□ ７～９学級　□ １０～１２学級
☑ １３～１５学級　□ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導
☑ その他

【研究教科】　☑ 国語　☑ 社会　☑ 数学　☑ 理科
☑ 外国語　☑ 音楽　☑ 美術　☑ 技術・家庭
☑ 保健体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□ 無